



西三河（にしみかわ）とは、愛知県の中部を指す。

現在の愛知県政においては9市（豊田市、岡崎市、碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、みよし市）と1町（額田郡幸田町）を範囲とする。

原義は令制国の三河国の西半分で、矢作川流域の碧海郡、幡豆郡、額田郡、加茂郡から成る地方である。

○『徳川諸家系譜』に所収の『徳川幕府家譜』によると、松平信光から親忠・長親・信忠までの4代、安祥城に御在城のときに奉仕した家臣を安祥譜代という。その後、清康が山中・岡崎を攻略した以降の家臣を山中・岡崎譜代という。

○『柳営秘鑑』では、安祥譜代、岡崎譜代、駿河譜代と区分

○『岡崎市史』は『武徳大成記』（徳川吉宗曰く、虚飾多し）の清康の項目にある岩津譜第（松平親氏・泰親・信光の3代に仕えた者）・安城譜第（親忠・長親に仕えた者）・岡崎譜第（清康に仕えた者）とする。なお、岩津は現在の岡崎市岩津町。

○『柳営秘鑑』にいう

安祥譜代 酒井左衛門尉、大久保、本多、阿部、石川、青山、植村、右七家

岡崎譜代 井伊、榊原、鳥居、戸田、永井、水野、内藤、安藤、久世、大須賀、井上、阿部、秋本、渡邊、伊丹、屋代、此十六家

○碧南出身の武士

永井直勝（1563～1626） 永井荷風や三島由紀夫の先祖とも

永禄6年（1563年）、三河国碧海郡大浜郷（現在の碧南市音羽町）に生まれる。徳川家康の嫡男・信康に仕えたが、天正7年（1579年）に信康が自刃すると隠棲した。天正8年（1580年）、家康に召し出されて再び家臣となる。1584年の小牧・長久手の戦いでは池田恒興を討ち取る。1594年、池田輝政が督姫を娶った際、輝政の求めに応じ、恒興を討ち取った際の事を語った。直勝の知行が5000石と知った輝政は、父を討ち取った功績の価値が5000石しかないのかと嘆息した。

関ヶ原の戦いの後に近江国に2000石を加増され、7000石を領する。

大坂の陣にも参戦して戦功を上げ、元和2年に（1616年）上野小幡藩1万7000石に加増。翌元和3年（1617年）には常陸笠間藩3万2000石を与えられ、後に2万石を加増される。元和8年（1622年）、笠間を浅野長重に譲って、代わりに下総古河において7万2000石を与えられた。

○家康は1542年生まれ（ユリウス暦だと1543年）

長男 信康 1559 筑山殿 1579没

長女 亀姫 1560 筑山殿 奥平信昌妻

次女 督姫 1565 西郡局 北条氏直妻、のち池田輝政妻

次男 秀康 1574 お万の方 越前宰相

三男 秀忠 1579 西郷局

○鶴殿家の本家は上之郷鶴殿家 現在の蒲郡 ぎりぎり東三河
大名家としては残らず

○酒井忠次のこと

○徳川四天王のこと

○徳川家に於ける「政治」（当時の言葉でいう「仕置き」）